浄瑠璃寺

浄瑠璃寺の敷地は平安時代（794－1185年）の浄土園を模して作られています。 浄土園のデザインは「浄土」を再現しようとしており、意識的な生活の過程の仏教の概念を呼び起こしています。 浄瑠璃寺の三重塔は、太陽が上がる（出生）東の方角に建っており、一方で本堂は、太陽が沈む（死）西の方角に建っています。三重塔と本堂の間にある池は、この世とあの世の間の海を模していると同時に、阿弥陀の世界（極楽）の象徴でもあります。本堂と三重塔は国宝に指定されています。浄瑠璃寺は、九体寺とも呼ばれており、九体の阿弥陀仏が本堂に鎮座しています。

歴史

京都の木津川にある浄瑠璃寺は、8世紀に創設されたと考えられていますが、正確な日時は不明です。僧侶が静かな場所で修行し勉強するために、この地が選ばれました。最初の本堂は1047年に建てられ、小さな木彫りの薬師如来が本尊として祀られていたとの文献に記述があります。これは、今日の寺院に祀られている薬師如来と同じであると信じられています。1107年、阿弥陀如来の木像9体が浄瑠璃に他の仏像とともに祀られました。

文献によると、貴族や皇族の要請によって、9体の阿弥陀如来を擁する寺が多く建てられたという記述があります。浄瑠璃寺は9体阿弥陀如来像を祀る御堂・仏像共に残る唯一の寺院であり、阿弥陀仏と浄土信仰を示す重要な場所です。本堂は1157年に現在の場所に移されたが、どこから来たものかはわかっていません。また、京都に建てられていた三重塔は解体され、1178年に浄瑠璃寺に移されました。池を含む庭園は1150年に作られました（1976年に発掘され、その後復元されました）。

宝物と芸術品

浄瑠璃寺にはいくつかの国宝と重要文化財があります。三重塔と本堂は、ともに日本の国宝です。三重塔の中に祀られている木造彫像で作られた薬師如来像は、重要文化財に指定されています。好天時の、毎月8日に参拝することができます。本堂には、九体阿弥陀如来像と、四天王像が横一列に並んでおり、それらはともに国宝です。本堂には、吉祥天像（平和と繁栄のための祈りが提供され、優美な婦人として表現される）。吉祥天像は、一年の中で限られた日にしか見ることができません。